



4つの方向性(シナリオ)

A. 快適性優先

冬の移動の快適性を優先し、冬でもスムーズな移動を目指します。

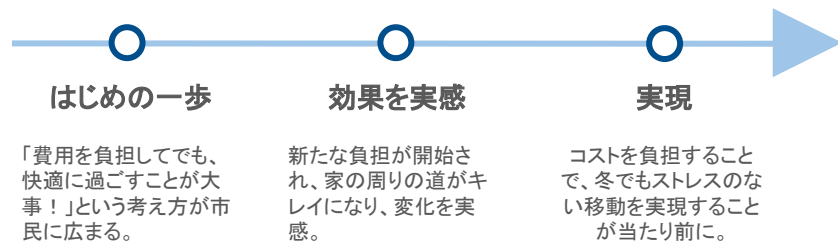
【目指す姿】

幹線道路から生活道路まで高い水準の除排雪を行い、車も人もストレスなく、冬でも円滑でスムーズな移動環境を目指します。

【課題】

担い手の更なる確保や多額の財源が必要となり、他の市民サービス(福祉・教育など)に影響する可能性があります。

【目指す姿までのロードマップ(イメージ)】



この未来を選ぶということ

雪の不便さを「仕方ない」と諦めるのではなく、必要なコストを社会全体で負担してでも、冬の快適な暮らしと経済活動を守り抜く選択です。



4つの方向性(シナリオ)

B. 地域で支えあう

地域の力で細やかな除排雪を行い、行政は活動を支援します。

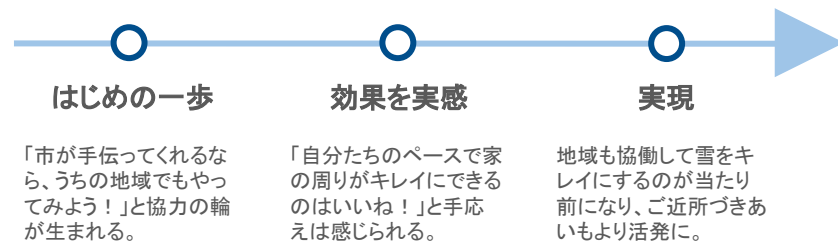
【目指す姿】

市と地域が協働する仕組みを整備。公園の雪置場活用や、除雪機の貸出・共同利用などを通じて地域を支援することを目指します。

【課題】

地域の担い手や協力体制によって除雪の質やスピードに差が出ることや、これまで以上に地域の取組が必要になります。

【目指す姿までのロードマップ(イメージ)】



この未来を選ぶということ

地域住民の負担が増えるかもしれません。でもその分、隣人の顔が見え、いざという時に支えあえる関係が育っていく。そんな社会を選ぶということです。



4つの方向性(シナリオ)

C. 技術に投資する

将来の担い手不足に備え、自動化などの技術に重点的に投資します。

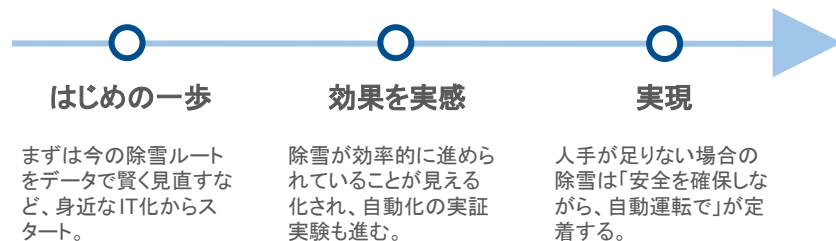
【目指す姿】

将来の技術へ投資しながら、現在の作業も可能な限り効率化、限られた担い手で質の維持を目指します。

【課題】

自動化などの実現時期は不透明で、機械の導入・維持・更新に費用がかかるため財政負担の軽減は難しい可能性があります。

【目指す姿までのロードマップ(イメージ)】



この未来を選ぶということ

目の先の快適さを求めるのではなく、私たちが少し不便を受け入れることで、子どもや孫の世代も安心して冬を暮らせる街を残すという選択です。



4つの方向性(シナリオ)

D. 行動・意識を変える

天候や積雪状況に応じた生活スタイルや意識を社会に定着させます。

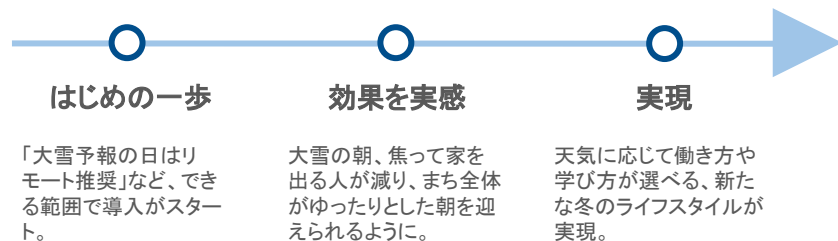
【目指す姿】

天候や路面の状況に応じたテレワークや時差出勤、オンライン授業など、雪国らしい新たな働き方・暮らし方の定着を目指します。

【課題】

「いつも通り」に活動できない日があるという生活や経済活動への制約や、在宅が困難な事情のある方々への配慮も求められます。

【目指す姿までのロードマップ(イメージ)】



この未来を選ぶということ

天候に合わせて働き方や学び方を変えるしなやかさを持つことで、結果的に社会全体の安全と安定を守る。雪国ならではの暮らし方を選ぶ、ということです。